

「自主性」と「創造性」のために

校長 森 和 久



夏休みを前後合わせて、10日間短縮いたしました。いつもより少なくなった夏休みですが、それでもまとまった休みであることには違いがありませんので、お子様には、有意義に

過ごしてほしいと思っています。

ステイホーム期間のことについて、多くの人が自分を見つめ直し、自分が本当にやりたいことが分かったという趣旨の発言をされています。ここのところ、新型コロナウイルス感染症に関してまた心配な状況になってきています。今回の夏休みは、従来の夏休みのようにあちこち出かけて過ごすということができないかもしれません。そうした際に、今回の夏休みをステイホーム期間中のように、自分の興味を広げ、深める期間として、生かしていただければと考えております。その際、大事なことは、「自分で何をするか考える」ということです。

いつもの夏休みだと、ひょっとしたら様々な旅行や行事でスケジュールがびっしり詰まっていて、さらに宿題を行う時間を取ると、お子様ご自身で何をするか考える余地があまりない人もいたかもしれません。それももちろん充実した休みの過ごし方なのですが、「外出を控えよう」、「そうするとやることがない」、「では何をしようか」と考える状況も、視点を変えてみれば、とても充実した休みにするチャンスとも言えます。

案外私たちは、自分で何をするか考え、行動できる、「選択の自由がある時間」というものを十分に有しているわけではありません。仕事あるいは学校の時間と食事、睡眠等基本的な生活の維持のための時間を除くと、自分の自由になる時間というのは意外に少ないのではないのでしょうか。しかし、自分でどうするか考えて行動することで主体性が育ち、新たにすべきことを

考えることによって創造性が生まれると考えると、自己選択の余地がある時間をもつということはとても貴重です。

仕事においても、次から次と行うべき仕事をこなしていくということも、爽快感・充実感があるのですが、本来、創造性を発揮して欲しい仕事であればあるほど、「次何をしようかな」と考える時間をつくるべきで、その中から従来にないアイデアが生まれやすいです。学校の勉強も同様で、多くのことがらをどんどん習得していくだけでなく、自分で何をするか考えて探求的な学習をする時間も必要であり、今回の学習指導要領の改訂でも重視されています。

多分私のような昭和の子どもたちは、今の子どもたちより自己選択の余地のある時間を豊富に持っていました。たいくつだとぼやきながらも、何をしようか考える機会は多かったように感じます。何をするか考え、よいアイデアがひらめいたつもりでも、実際には何もせずに過ごしてしまって後悔したり、計画は立てたものの、すぐ飽きてしまったりと、私の場合、結果として何らかの成果があったことはほとんどありませんでした。けれども、アイデア倒れや三日坊主の経験は、今になって思えば有意義だったと思います。そういった試行錯誤が、自分はどういうことが向いているのか、どういう計画の立て方をするとうまくいくのかを掴むことにつながると考えます。

主体性・創造性を伸ばすためにも、自分で何をするのかを考え、計画を立てて、実行する。そんな夏休みになるとよいと考えております。

最後になりましたが、皆さまには新型コロナウイルス感染症に関して極めて難しい状況の中、1学期も、本校教育活動に温かいご支援、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

